

学校名	荒川区立第三中学校
校長名	清水 隆彦

1 平成21年度「学力向上のための調査」結果分析

(1) 明らかになった成果

達成率		荒川区	第三中
21国語	教科総合	63.5	65.6
	活用	62.3	65.7
20国語	教科総合	70.3	74.1
	活用	57.8	57.3
21数学	教科総合	58.8	66.4
	活用	47.2	53.9
20数学	教科総合	57.2	67.2
	活用	53.9	58.4
21英語	教科総合	68.1	73.8
20英語	教科総合	67.2	72.7

①全体像（課題の本質的などらえ）

本校は、平成14年4月に教科教室型校舎、ノーチヤイムの学校として生まれ変わり、それ以降、毎日生徒は授業に遅れないよう時間を意識して行動し、学習活動にも意欲的に取り組んでいます。毎日の時間を意識した規律正しい生活、授業規律こそが学力向上につながるものと考えます。

さらに全ての教育活動をキャリア教育と位置づけ、将来に夢や希望をもたせるための行事を実践しています。多様な職業の人々を招いた「校内ハローワーク」、専門家による授業「おもしろ探究授業」等を実施し、生徒一人一人の興味・関心や学び方に即した関心・意欲・態度を育成する取り組みを継続しています。学力調査の達成率がほとんどの項目で区全体達成率を上回ったことは、授業改善計画のよる授業の工夫や学力向上

上マニフェスに基づき実施した補習活動等も成果をあげているものと思われる。また、学習意識調査では「自ら学ぶ力」等、キャリア教育の取り組みが成果となって表れているものと思われます。

②21年度の成果

「平成21年度、学力向上のための調査」の全学年の結果を見ますと、学校全体の学習達成率では全ての分野で区全体達成率を上回る結果となりました。しかしながら、学年別、教科別に細かく見ていくといくつかの項目で力不足の点も見られ、今後、指導方法の工夫や改善を図る取り組みが一層必要と考えられます。

学習指導の成果の要因としては、定期考査に向かう過程で、学習計画帳の作成等のきめ細かな指導、家庭学習の習慣づけ、学習教室での補習等、小さな積み重ねの成果がでたものと思われます。また、書籍充実に伴って図書館の稼働率が上がり、累積利用者数、読書量ともに激増したことで、言語能力の高まりが少しずつ身につけてきたものと考えられます。また、学力向上マニフェストの大きな目標であった各種検定への受験者、合格者が20年度実績の2倍以上になったことは、学習習慣の定着への一つの要因になっている。

(2) 課題の分析と改善の視点

達成率だけではわからない二極化の傾向があり、達成率に応じた個々の指導の充実が本校の大きな課題です。第三中学校では、応用・発展の力を一層伸ばすとともに、各教科の学習活動の中に繰り返しの練習を取り入れるなどして、基礎力の向上を図る学習指導を進めていきます。共通した具体策は、

- ・補習等について外部人材も活用しながら二極化した到達度を埋めるため基礎学力育成に努めます。
- ・学習計画帳の作成等、きめ細かい指導、日頃の補習の積み重ねや授業規律の徹底を一層図っていきます。
- ・細かな指示と指導による学習習慣を確立、図書館利用の推進による言語能力の向上を図ります。
- ・今年度も週29時間授業を実施し、問題解決的な学習を充実し、自ら学び、自ら考える生徒を育成します。

(各教科の成果の分析○と課題▲)

達成率		荒川区	第三中	
全学年	国語	教科総合	63.5	65.6
		活用	62.3	65.7
	数学	教科総合	58.8	66.4
		活用	47.2	53.9
	英語	教科総合	68.1	73.8
	理科	教科総合	49.7	50.6
	社会	教科総合	53.5	56.5

【国語】…○全体像として「関心・意欲・態度」に関して肯定的な姿勢が区達成率数値を大きく上回っているにもかかわらず、それに追従する実行（調べ学習等）と継続力の不足が総合的な達成率の不足を招いている。「言語についての知識・理解・技能」に関するボトムアップが早急の課題である。

全員参加の弁論大会等を通してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成が成果として表れ、「話す力・聞く力」の達成率の高さへ結びついたと考えられる。

▲「話す力・聞く力」の達成率が高い点は、「校内弁論大会」等でプレゼンテーション・コミュニケーション能力を育てる手法としては成果があり、今後も継続していく。「読む力」の数値の高さは、図書館利用活性化の成果の表れでもあり、朝

読書や図書館とのコラボレーション授業をより推進していく。

【社会】…○全学年で、高い達成率上げることが出来た。昨年度、現2年生は、社会的事象への知識・理解が区の水準を下回る結果となり、学習内容の基礎的知識の定着について課題が見られた。地理・歴史共に毎時間の小テストの積み重ねにより基礎的な知識の蓄積が出来た。

▲毎時間の授業の復習、授業前に教科書を読む等の予習を、習慣づけるように働きかけたい。また単元が終わるごとにワークブックによって確認するまた、書くことを、発表することなどを大事にする。基礎学力の定着が、興味関心を高める。

【数学】…○すべての学年で高い達成率を示した。日頃の授業態度とともに、土曜スクール・「三中てらこや」などの補習にも積極的に参加した成果と思われる。また、習熟度別授業では基礎コースを少人数とし、一人一人にきめこま指導を行った。発展コースでは、たくさんの演習問題を行った。今後は、家庭学習・補習などをより一層充実させ、学力向上につなげていきたい。

▲数学的な見方、考え方が他に比べると弱い傾向がある。応用力をつけさせることが課題である。具体策としては、① 家庭学習の充実 ② 補習の充実③ 数学検定への挑戦 ④ メディアプリントの活用（数学コンテスト・小テストをメディアプリントから出題する。）⑤ 定期考査の充実…等である。

【理科】…○どの項目も区全体達成率を1～2ポイント上まわっている。観察・実験をより少人数で、多く取り入れた結果だと考えられる。身のまわりのニュースなどを教材として取り入れることで、生徒の学習意欲・関心を高めることができた。

▲観察・実験ごとのデータ処理、考察の時間をさらに充実させ、「科学的な思考」が伸ばせるよう応用問題にも取り組ませる。また、「知識・理解」の定着については、ワーク、小テストなども活用しその定着を図る。学校では実験が困難なものについて、ICTを活用し「自然事象についての知識・理解」の向上に努める。

【英語】…○高い達成率を示した。小中一貫教育を進め、小学校英語を踏まえた形で、文字指導や音声指導を行ってきたことが功を奏していると考えられる。小学校英語で学んできた学習を中学校でも連携して、学習を進めている成果であると考えられる。文法事項の定着に力を注いだことがこの成果につながっている。

▲ほぼ毎日英語に触れるように授業を進めていく。リスニングについては、これまで以上に音声中心の授業展開を進め、特にやり取りはできるだけ簡単な英語を使って、理解できるフレーズを増やしていく。文法事項は、教科書内容とは別に問題集や補助教材等を活用し、定着度を確認する。その中で、発展的な問題にも対応できる力をつけさせたい。

2 学力向上を図るための学校としての考え方

本校が目指す学習にチャレンジする子ども像

- ① わかる喜びを体感し、達成感を感じ、学びの範囲を意欲的に広めようとする生徒
(ICTを活用した視覚的な授業、補習活動の充実、教科教室型を活用した教科指導計画の充実)
- ② 将来を見据え、自分の目標に向けて全力を尽くす生徒
(身近な期末考査への取り組み、遠くは将来就きたい仕事にむけて、今、何が必要かをわからせる体験活動等、キャリア教育の充実を図る。)
- ③ 全ての基本となる言語力を身につけ、あらゆる教科に自信をもってチャレンジできる生徒。
 - ・読書活動の推進、図書館の授業活用・図書館指導員とのコラボレーション授業を推進する。
 - ・習熟度別学習、選択教科等、個に応じたきめ細かな指導を推進する。
 - ・授業規律の確立、教科教室の施設を生かした指導方法の工夫により、生徒の学ぶ意欲を引き出す。

3 学力向上のための学校としての取り組み

(1) チャレンジする教師の育成に向けて (授業力の向上など)

○教員の授業力向上

- ・本校独自のOJT研修年間計画に基づき、主任、主幹による指導を徹底することで資質向上を図る。
- ・「小中一貫教育実践校」として研究実績を踏まえ、研究授業、実践により指導力の向上を図る。
- ・自己申告の面接を通して数値目標を設定し、教職員の意識改革(教科教室型校舎の利点活用、小中一貫教育の視点、図書館活用した授業・・・等)を図る。
- ・学力向上のための方策探り、教職員の共通理解を図る。
- ・定期的な授業観察、指導、講評、改善による授業の質の向上を目指す。
- ・学力調査後の教科部会における結果分析と学力向上のための方策の検討し、授業改善計画を作成する。

(2) 確かな学力の定着・向上に向けて (授業改善など)

- ・授業改善プランの作成・公表・実践をもとに授業の質的向上を目指す。
- ・教科教室型校舎、メディアコーナーの活用し、幅広い授業の展開により独自の教育成果を上げていく。
- ・教材、教具を工夫し緻密な指導計画を作成し、個に応じた指導方法及び適切な評価方法の改善に努める。

※授業での取り組みの重点(生徒の基礎学力の向上、興味関心を生かす指導)

○生徒の興味・関心を高める学習指導の工夫

- ・ICT機器を積極的に活用し、学習のポイントを焦点化した授業を推進する。
- ・必要に応じて観察・実験、体験的な活動を多く取り入れた学習活動を展開する。
- ・図書館の蔵書やインターネット等の活用、図書館指導員とのコラボ授業を全教科で実施する。
- ・日常生活との関連づけを図った、身近な素材を取り入れた学習指導を展開します。

○基礎学力の向上

- ・基礎学力の向上を図るために、授業の中で復習する機会を多く取り入れる。
- ・基礎学力の向上を図るために、授業の中に反復練習の機会を多く取り入れる。
- ・基礎学力の向上を図るために、授業の中で書く機会を多く取り入れた授業を展開する。
- ・基礎学力の向上を図るために、定期考査前等に家庭学習の状況を把握し、きめ細かな指導を行う。
- ・小単元の終了時に短時間の小テストを行い、基礎力の向上と学習内容を見直すきっかけとする。

○生徒の思考力・応用力を育てる学習活動の推進

- ・少人数グループ活動を多く取り入れ、調べたことをまとめる力や発表する力を育てる。
- ・基礎的な力を生かして、応用・発展的な力を育てる学習指導を展開する。
- ・学習内容の理解に立って、自ら課題を設定し追究する課題解決活動を多く取り入れる。
- ・生徒の特性に応じたクラス分けを行い、その特性にあった指導方法を工夫したり、課題解決活動を取り入れたりするなどして、生徒の考える力や応用する力を育てる。

(3) 基本的な学習習慣の確立に向けて（家庭学習を含む）

- 家庭調査（アンケート）による学力向上対策における成果と家庭学習の在り方を検証する。
- 学年だよりを通じた“家庭学習の重要性”の各家庭への意識啓発と、学年の発達段階に応じた家庭学習の協力依頼を行う。
- 三者面談、保護者会等での意図的な家庭学習の状況把握と改善策を指示する。
- 全校生徒対象の校長面接を実施し、学習に取り組む姿勢、目的、方法について考えさせる。
- 保護者会での評価、評定の解説、周知を徹底する。

(4) 国語力の向上に向けて

- 語彙の基本の確立に関しては、国語の授業で従来から取り組んでいる毎時間（隔時間の場合もある）授業開始直後の漢字小テストを継続する。
- 前年度の生徒の学校図書館利用率、貸し出し冊数が激増した。図書館指導員や保護者ボランティアの皆さんによる年間220日以上の開館を実現し、さらに読書量の増加を図り国語力向上を目指す。
- 基礎知識を発展応用させるための方策として、充実してきた図書（書籍）を活用しながら、毎朝の朝読書を通しての「校内読書感想文コンクール」「小論文コンテスト」などの実施、「校内弁論大会」へとレベルの向上を目指す。
- 国語科の単元の基礎的な共通事項を全体指導で行った後、その進度に応じて教科書内の発展・補充の使い分けを準備し、取り組ませていくなどの指導計画を工夫しながら興味意欲関心を失うことのないように留意しつつ実践する。
- 各行事のまとめ活動、発表活動を通じて、説明能力（プレゼンテーション能力）を育成する。
 - ・語彙の基本の確立に関しては、授業開始直後の漢字小テスト、弁論大会に向けた取り組みを継続する。
 - ・図書館の授業活用、図書館の利用率を上げ読書量の増加を図り国語力向上を目指す。

(5) 土曜スクールや補充学習について（具体的に）

- 補充授業を計画的に実施する。とくに学校パワーアップ事業の一貫として、放課後、夜間の補修（三中てらこや）での個別学習を強化する。
- 夏季休業中の実力アップ教室の実施……基礎学力の向上と発展的な力の育成を行う。
- あらかじめ土曜スクールの実施……補習的な指導を中心とした基礎学力の育成
- 質問教室の実施……日常的に分からないところを質問できる体制の整備、定期考査一週間前の質問教室を実施する。
- 数学計算コンテスト、英語スペリングコンテストの実施
- 計算力の向上を図る宿題プリントの提示
- 土曜休業日を活用した漢字検定教室、英語検定教室、数学検定教室等の実施により、資格取得を通じて学力向上を図る。検定という身近な目標設定をさせ、検定に向かう過程で基礎知識の向上を図る。（毎回受験者数45名以上を目指す。）
- 小中の円滑な接続を目指して、小学生の体験授業、英検等の学習会へ参加させ、受検への参加を促す。